

都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況

四半期調査：令和6年第Ⅲ四半期（7～9月）

設備投資：わずかに低下

採算状況：悪化に転じる

資金繰り：悪化に転じる

雇用人員：ほぼ横ばいで推移

来期（令和6年10～12月）の設備投資の「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は全体では18.9%となり、わずかに低下する見通しとなった。

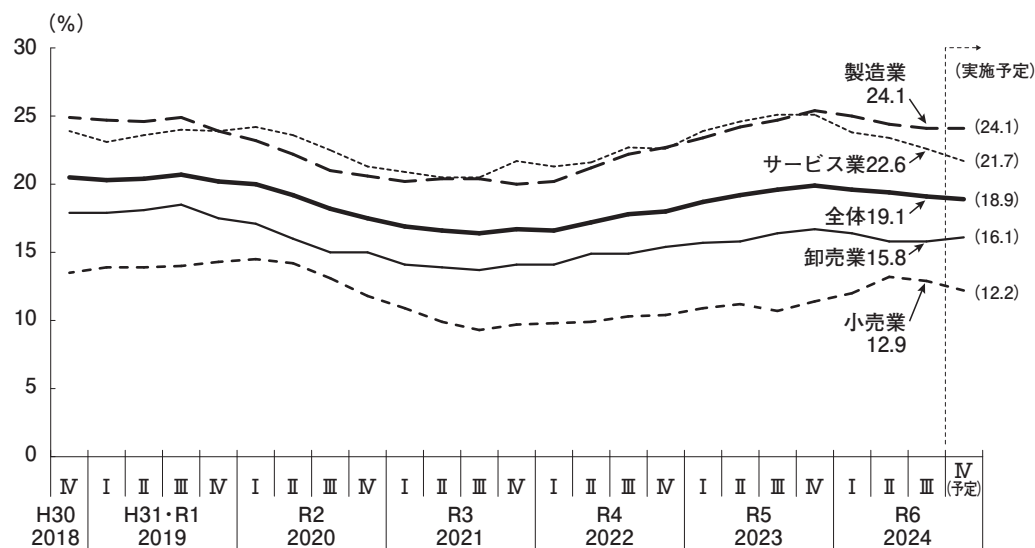
業種別にみると、設備投資の「実施予定」割合は当期と比べてサービス業21.7%は低下、小売業12.2%はやや低下が見込まれる。一方、卸売業16.1%はわずかに上昇する見通しとなった。

■設備投資■

設備投資の動向を後方4四半期移動平均でみると、当期（令和6年7～9月）に設備投資を「実施した」割合は全体では19.1%となり、前期（令和6年4～6月）の19.4%からわずかに低下した。

業種別にみると、設備投資を「実施した」割合はサービス業22.6%（前期23.4%）が低下、製造業24.1%（同24.4%）と小売業12.9%（同13.2%）はともにわずかに低下した。

図表1 設備投資の実施割合の推移 —後方4四半期移動平均—



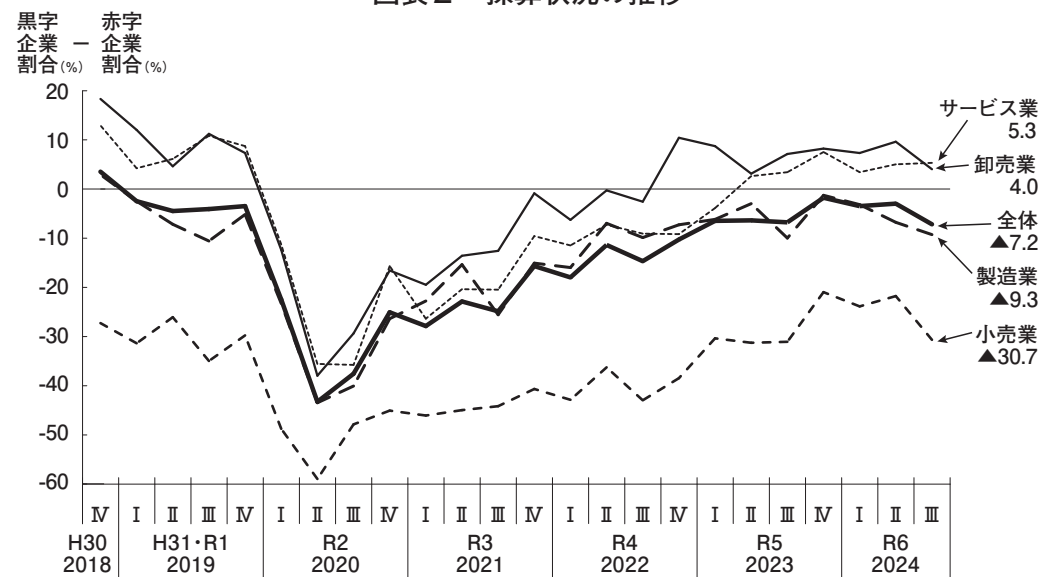
注）来期「実施予定」割合（後方4四半期移動平均）は、後方3四半期実績と来期予定の平均。

■採算状況■

当期の採算状況を「黒字」とした企業割合－「赤字」とした企業割合でみると、全体では▲7.2（前期▲3.0）となり、4.2ポイント減少し悪化に転じた。

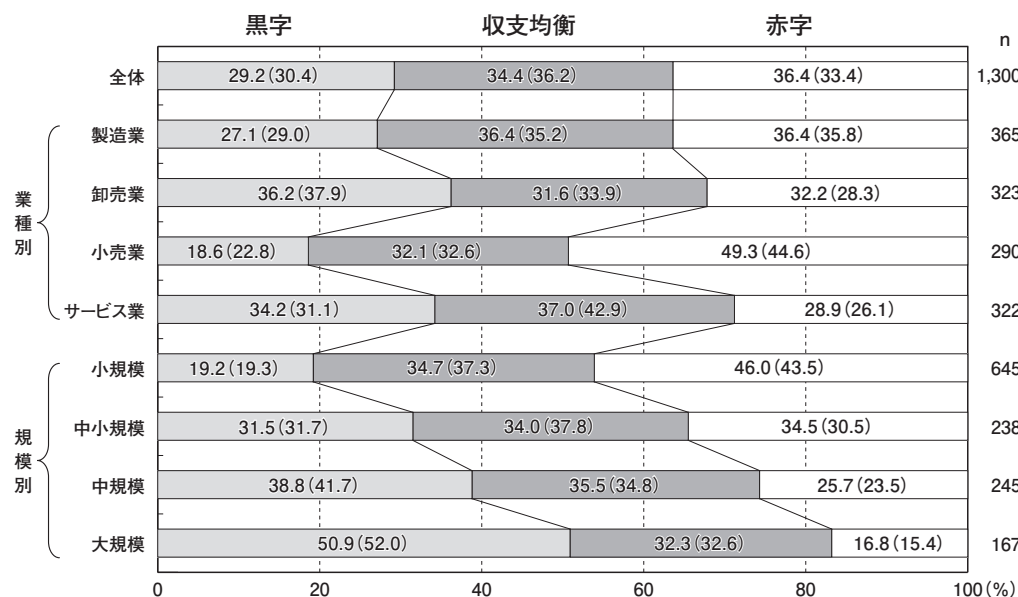
業種別にみると、小売業▲30.7（同▲21.8）は8.9ポイント減少し大幅に悪化、卸売業4.0（同9.6）は5.6ポイント減少し悪化、製造業▲9.3（同▲6.8）は2.5ポイント減少しやや悪化した。

図表2 採算状況の推移



規模別にみると、規模が小さくなるほど「赤字」が高くなり、小規模は 46.0%（同 43.5%）を占めた。前期と比べて全ての規模で赤字の割合が増加した。

図表3 採算状況（業種別・規模別）



注）規模別は規模不明を除く。（ ）内は前期（令和6年4～6月）の数値。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

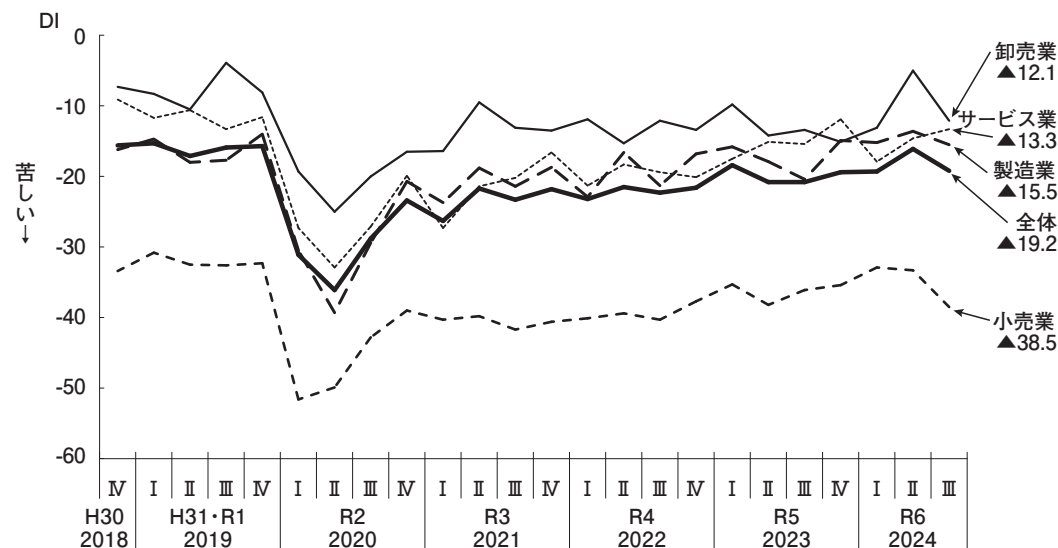
資金繰り

当期の資金繰り状況を資金繰りDI（「楽」－「苦しい」）でみると、全体では▲19.2（前期▲16.1）となり、3.1ポイント減少し悪化に転じた。

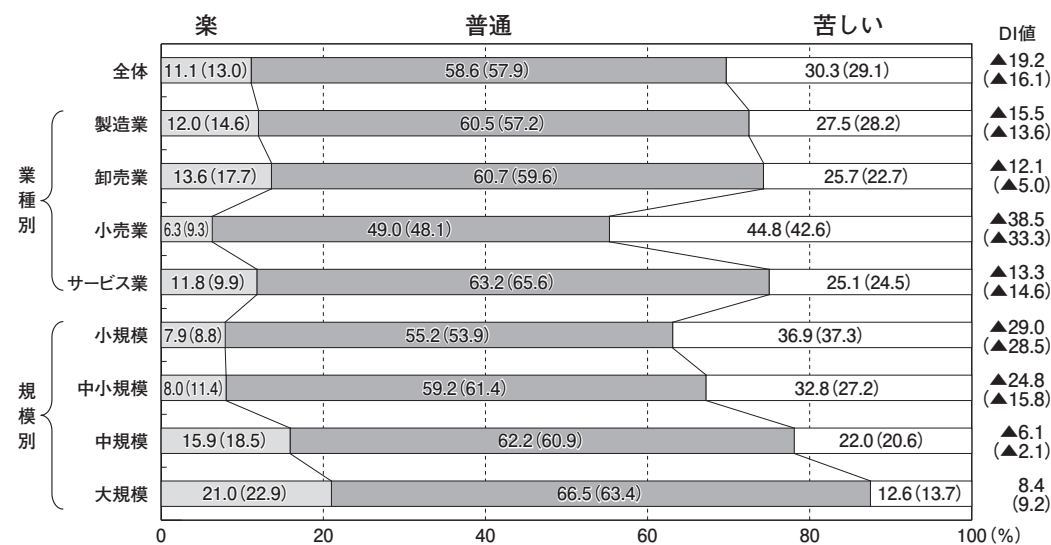
業種別にDI値をみると、卸売業▲12.1（同▲5.0）は 7.1ポイント減少、小売業▲38.5（同▲33.3）は 5.2ポイント減少しともに大幅に悪化、製造業▲15.5（同▲13.6）は 1.9ポイント減少しやや悪化した。一方、サービス業▲13.3（同▲14.6）は 1.3ポイント増加しやや改善した。

規模別にDI値をみると、前期と比べて全ての規模で減少し悪化した。なかでも中小規模▲24.8（同▲15.8）は 9.0ポイント減少し大幅に悪化した。

図表4 資金繰りDIの推移



図表5 資金繰り状況（業種別・規模別）



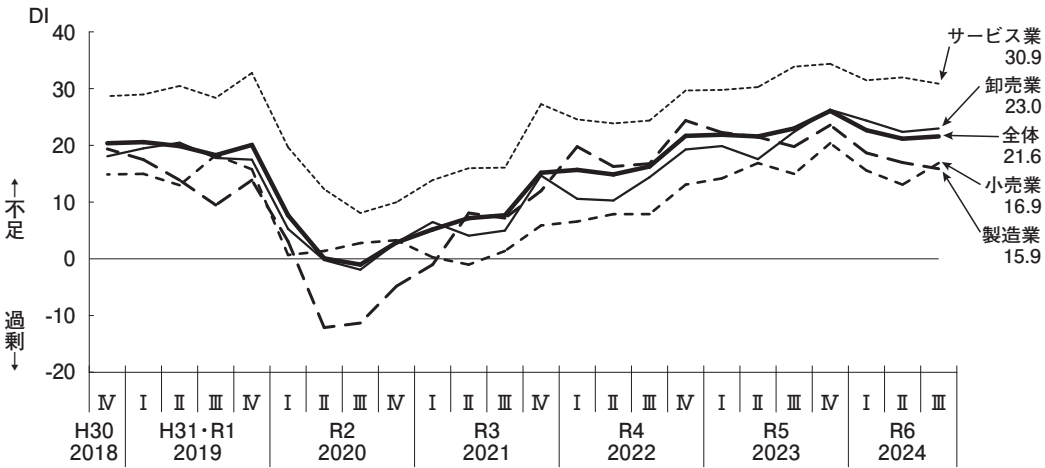
注）規模別は規模不明を除く。（ ）内は前期（令和6年4～6月）の数値。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。

■雇用人員■

当期の雇用状況を雇用人員DI（「不足」－「過剰」）でみると、全体では 21.6（前期 21.2）となり、ほぼ横ばいで推移した。

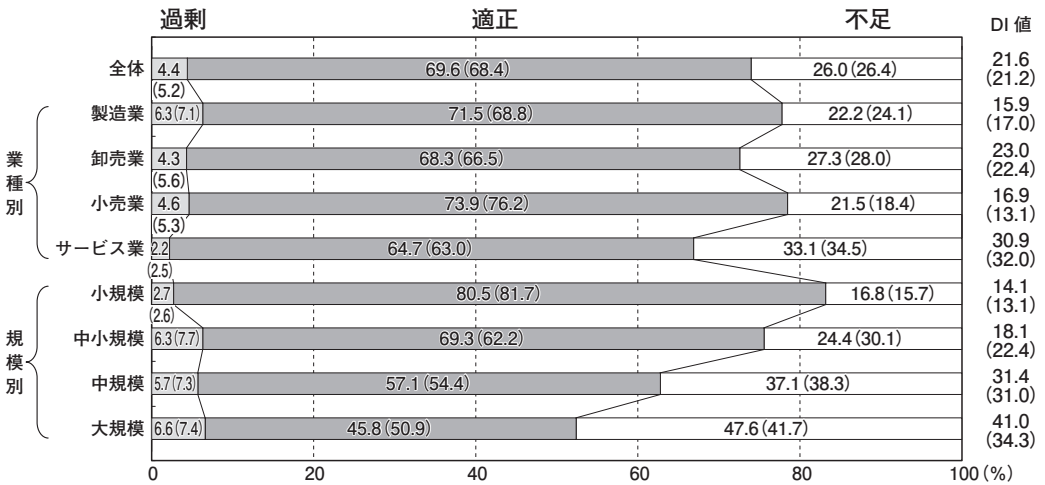
業種別にDI値をみると、小売業 16.9（同13.1）は 3.8ポイント増加しやや上昇、卸売業 23.0（同22.4）は 0.6ポイント増加しわずかに上昇した。

図表6 雇用人員DIの推移



規模別にDI値をみると、規模が大きくなるほどDI値が高くなり、大規模は 41.0（同 34.3）となった。

図表7 雇用人員の状況（業種別・規模別）



注）規模別は規模不明を除く。（ ）内は前期（令和6年4～6月）の数値。
四捨五入のため合計が100%にならない場合がある。